

# しらす川



第 68 号

特集：中勢五主海岸(その2)

2011 年 8 月 日本野鳥の会三重

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

## 巻頭エッセイ

私たちは何を目指すべきなのか

近藤義孝（桑名市）

東日本大震災から、4ヶ月が経とうとしている。地震、津波が同時に多くの命を奪い、助かっても家族や家、そして仕事まで失った中、我慢強く生きていこうとする東北の人たちの姿勢は敬服に値する。

私たちのまわりでは、電力不足に対応して今までの生活の見直しが行われている。わが家でも、例年以上に軒先によしずとアサガオのグリーンカーテンを張り巡らせた。クーラーはできるだけ使わないですごそうと思う。

日本全国が電力不足に陥ったのは、原子力発電所のうち、定期検査をしていたものを再稼働させるに当たり、地域住民の十分な理解が得られないためである。原子力発電は低コストで二酸化炭素もほとんど出さない環境に優しい発電であると言ってきた。今でも、原子力を止めると電気代が一月当たり2000円高くなると日本学術会議の分科会は言っている。しかし、彼らは原子力発電を進めてきた張本人である。

今回の事故を考えると、エネルギー政策を担当してきた産業経済省や文部科学省、推進の立場を取ることによって多くの研究費を得ることができた大学の研究者、原発を作る技術を手に入れ、それによって利益を得た原発メーカー、そして、実際に地元に対して多くの金を注ぎ込むことによって立地を進めた電力会社など、原発ファミリーといった利益共有型の構造で日本に多くの原発をつくることができた。そこに事態を深刻化させた原因があると思う。

三重県でも、芦原原発建設を進めようとする中部電力とそれに反対する地元住民との間で多くの問題があった。強引に開発容認派をつくるためにお金を注ぎ込むことで地元を二分させ、家族・兄弟でも口がきけなくなった。

危険があることを唱えて、推進はできない。本当の議論をする前に、難しいことは私たちに任せ、こんな利益があるから推進しましょうという立場で進めてきたために、緊急時の対策がなおよ

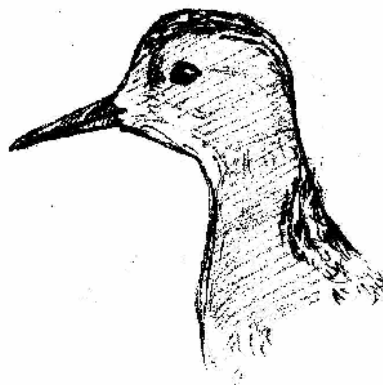
りにされ、大きな事故につながったのではないだろうか。

明治政府は、殖産興業の名の下に官営工場を開設し、多くの産業を興した。これらの産業は三井や三菱などに払い下げられ、政府の保護を受けて財閥が形成されていった。

第二次世界大戦後の日本では、財閥は解体されたが、その分割された会社を中心に重厚長大産業の育成が経済産業省（当時は通商産業省）によって進められた。原子力開発もこのシステムの中で進められた産業であった。この結果、多くの富と恩恵が一部の人たちに分け与えられた。しかし、今回の原発事故である。レベル7というチェルノブイリ原発以来の大規模災害が起きてしまった。

ほんとうに私たちを幸せにするために原子力発電をつくろうとしたのだろうか。利益を得ることができるチャンスがあれば、誰でもそれを利用したい。その一つとして行われたものであったのではないか。そんな疑問がわく。文部科学省の原子力安全委員会に原子力発電の危険性を指摘する人が含まれていたのだろうか。

環境政策でも、同じような構造が見られる。国営諫早湾干拓事業は自然保護団体や漁業協同組合の猛反対にあいながらも1997年に潮受け堤防が閉じられた。その結果、有明海は「死の海」と言われるほど水質が悪化し、多くの漁業被害が出た。長崎県は農業政策だけでなく、水害対策などに必要であると言っている。環境問題の面で真摯な議論が行われたことはあったのだろうか。審



コモンシギ

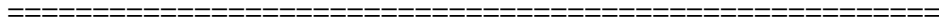
議会で推進の立場を取ることによって、地位や名誉が与えられるとしたら・・・ 開門調査が誰かの利益のためでなく、次の世代に迷惑をかけないようにきちんと実施されることを望む。

長良川河口堰・徳山ダムなども同時期に環境アセスメントが行われ、その評価は反対をする人たちが納得できるものではなかった。

今、私たちの周りでは同じようなことが続いている。風力発電は地球温暖化対策として進められている。国立公園で初めて、青山高原に風力発電が設置された。その後も県内の各地で風力発電の設置や計画が相次いでいる。なぜ、これほどまでに風力発電が進められるのであろうか。つくば市は学校に設置した風力発電によって電力需要が増え、損害を受けたとして、早稲田大学を訴えた。風力発電でこれだけ発電できたというデータはほとんどない。雷の直撃を受け、わずかでもブレ

ードが壊れるとそれを交換するために部品代の何十倍、何百倍のお金を使ってやぐらを建てなければならないと聞いた。風が強すぎると壊れるのを防ぐため、発電を止めている。ヨーロッパのように一定の方向から一定の強さの風が長く続くような平原で作るのではなく、風の向きが変わりやすい山の上に作る風力発電は有効なのだろうか。リゾートブームで各地にできたゴルフ場は次々に倒産していった。開発を行った業者は多大な利益を得て、運営会社がつぶれたわけである。同じようになっていないのであろうか、疑問が次々にわいてくる。

私たちは、これからの生活を考えるとき、次の世代に負担をかけないようにする必要があると思う。エネルギー消費を抑制し、我慢できることは我慢し、生きていかねばならないと思う。



表紙の言葉 コアジサシ

## 目 次

ハマヒルガオとコアジサシのヒナたち  
デコイ効果で誕生した 初めてのヒナたち  
嬉しくて こんな光景を想像してみました  
(小野新子：松阪市)

巻頭エッセイ	1
表紙の言葉	2
中勢五主海岸のページ (その2)	
4. 香良洲海岸	3
5. 五主海岸	3
6. 愛宕川から中の川まで	6
コアジサシ保護作戦顛末記	9
総会記事	11
事務局だより	17
野鳥記録	18
探鳥会報告	20
編集後記	25



ヤブデマリ

## 中勢五主海岸のページ(その2)

### 4. 香良洲海岸

津市香良洲（からす）町は雲出川河口の三角州の町です。海側には砂浜海岸があります。北側は海岸の奥行きが深く松林もあります。しかし、南側香良洲神社付近では、砂浜の奥行きのごく狭くなっています。少数ながらシロチドリが繁殖します。また、ハマシギ、ミユビシギなども飛来します。

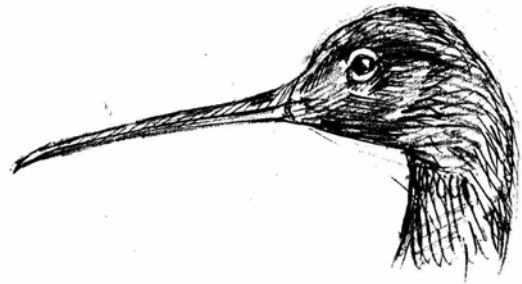
### 5. 五主海岸（雲出川河口から阪内川河口まで）

雲出川（くもづがわ）（本流）河口から阪内川河口に囲まれた海域には大きな干潟があります。碧川（あおがわ）、三渡川（みわたりがわ）もこの海域に流入します。おそらく伊勢湾で最も大きな干潟でしょう。海苔の養殖、アサリの採集などの漁業も盛んです。冬には海苔ソダが干潟一面に立ち並び、春には多くの潮干狩り客が訪れます。集まるシギ・チドリをめあてに関西方面からも多くのバーダーが訪れます。

この干潟の東側には松ヶ崎漁港、獺師漁港があり東端には阪内川が流れ込んでいます。その先端も干潮時には水が引き、シギ・チドリやカモ類、カモメ類も多く集まります。

冬には海上にスズガモの大群が現れ、時には万を超す数になります。三渡川の河口近くではオナガガモ、オカヨシガモ、ヨシガモが多く見られます。冬には猛禽もしばしば見られます。チュウヒ

は1, 2羽越冬するようです。オオタカやハヤブサなどの猛禽も時折姿をみせます。雲出川の河口、雲出大橋付近には葦原があります。オオジュリンなどの鳥類が観察できます。雲出川の河口砂洲ではここ数年コアジサシのコロニーができます。巣の数は20 巣くらいで少ないのですが、ごく少数のヒナが巣立っているようです。近年のコアジサシのコロニーの多くが埋立地など人工の場所で形成されています。雲出川河口は自然の砂洲で繁殖する貴重な場所と言えます。碧川（あおがわ）は短い川で、鳥も多くはないのですが、河畔林と葦原があり、ハマボウが自然分布しています。



ツルシギ（夏羽）



五主海岸沖の海苔ソダ



曽原新田の堤防内の水面（大池）



ダイシャクシギ（撮影：今井光昌）

#### 五主海岸のシギ・チドリ

三重県下では最も多くのシギ・チドリが観察できます。雲出川河口付近、阪内川河口付近が、見所でしょう。ハマシギは毎年400から800羽ほどが観察されています。チュウシャクシギやキアシシギも以前よりは減りましたが、それでも50羽前後がしばしば観察されます。ハウロクシギ、ダイシャクシギも毎年観察されています。また、ヘラシギ、アカアシシギ、カラフトアオアシシギなど、貴重な種が観察された記録もあります。この海岸の特色は堤防の内側（陸側）に水田や水路などがあり、満潮時や荒天の時にシギ・チドリが休

憩できるスペースのあることです。曽原新田の堤防のすぐ内側の水面（大池）では春にツルシギの群れが観察され、セイタカシギもほぼ常時見られます。この水面にはカモ類やオオバンも多く見られます。また水田にはウズラシギ、ヒバリシギ、タカブシギなど淡水性のシギが多く飛来します。干潟と後背の湿地これがセットになった五主海岸は中部地方では貴重な自然です。

#### 五主海岸でのカイトボード

最近この海岸でカイトボードが盛んになり出しました。遠浅な海岸は練習に適しているのかもしれ



れませんが、大きな帆が勢いよく動くのは野鳥の  
にとって大きな脅威でしょう。カイトボードが始ま  
ると逃げ惑うシギ・チドリが良く見られます。長  
距離を飛行するシギ・チドリにとってこの海岸は

貴重な採餌場所です。カイトボードはシギ・チド  
リの少ない場所でやってもらいたいものです。  
(文：平井正志)



オオソリハシシギ (撮影：今井光昌)



コアオアシシギ夏羽 (撮影：今井光昌)

## 6. 愛宕川河口から中の川河口まで

雲出川河口から櫛田川河口に至る海域は以前ひとつの大きな干潟であったと考えられます。明治44年に発行された陸地測量部の五万分の一地形図ではこのあたりに松ヶ崎の集落があるもののその他の海岸部は集落すらなく、水田、おそらくすこしずつ干拓された水田が広がっていました。しかし、高度成長期に中央部分が埋め立てられて松阪港が作られ、干潟が分断されました。一時は人工島の計画すら浮上しました。それでもなお、干潟はのこり、ノリの養殖や漁業に利用されていますし、シギ・チドリなどの鳥類も数多く飛来します。

### 愛宕川、金剛川合流点

愛宕川、金剛川は国道23号の北側、海岸近くで合流します。この合流点付近は川幅も広く、干潮時にはひろい干潟が出現します。干潟は金剛川河口より先まで伸びています。またこの合流点付近にはまとまった葦原がいくつかあります。さらに、周囲には養殖池なども残されており、シギ・チドリが身近に観察できる場所です。夏にはオオヨシキリが葦原で繁殖し、葦原の一部にはハマボウも自生しており、夏に黄色い花を咲かせます。ズグロカモメは毎年10羽前後越冬しており、干潮時には堤防近くを飛び、餌をとります。カモ類も多く観察できます。金剛川河口の沖には大潮満潮時も水没しない砂洲があります。多くの水鳥が

休息しているようですが、詳しい調査はされていません。

### 櫛田川河口

櫛田川の本流は堤防が新しくりましたが、堤防付近に全く植生がなくなり、鳥もほとんどいません。櫛田川河口先端の右岸には砂浜と干潟があり、干潟はかなり沖合まで広がっていて、ガラ岬とよばれる州があり、大潮干潮時には広大な面積になります。海面では海苔の養殖が盛んであり、また、定置網も設置されています。河口右岸に隣接する海岸には松名瀬海水浴場があり、夏には多くの人を訪れます。干潟では潮干狩りも盛んです。砂浜では夏にはハマボウが黄色い花を咲かせます。松名瀬海水浴場の東側の草地には「シロチドリの繁殖地」との看板が設置されていますが、草が生えていてシロチドリはここで繁殖していません。

### シギ・チドリ類

この三川河口にはシギ・チドリもかなりの数が訪れます。キアシシギは最大で50羽前後が見られ、100羽近く見られる場合もあります。また、ハマシギも多く、冬には300羽から500羽を数えます。また、チュウシャクシギ、ソリハシシギなども多く見られます。堤防の内側にあった養殖池や水面は最近、埋め立てられつつあり、葦原がなくなり、バンなどの水鳥のすみかはなくなるのは残念です。



オオソリハシシギとチュウシャクシギ (撮影：西村四郎)



ズグロカモメ夏羽 (撮影：田中豊成)



ズグロカモメ第1回冬羽 (撮影：田中豊成)

### ズグロカモメ

ズグロカモメはユリカモメによく似た小型のカモメです。初心者には区別がととても難しいでしょう。ユリカモメのくちばしは赤色が混じりますが、ズグロカモメでは黒くやや短いくちばしです。翼の白色部分はユリカモメでは翼の前縁が広く白いのですが、後縁には白い部分がありません、それに対し、ズグロカモメでは前縁の白色部は狭く、かつ後縁にも白色部があります。飛び方はズグロ

カモメがふわふわとした柔らかい飛び方をします。また、干潟など地面に降りることを好みます。慣れてくるとこれらの点で区別できます。ただし、幼鳥の場合は羽色がやや異なるので注意が必要です。

ズグロカモメは中国の遼寧省、河北省、山東省の渤海湾に面した海岸の塩性湿地で繁殖し、中国、台湾、朝鮮半島、日本、ベトナムで越冬します。日本では西日本、特に九州で多くみられます。全



世界での個体数はわずかに 7,100-9,600 羽と推定されており、かつ、繁殖地が急速な経済成長のため、埋め立てが進んでおり、絶滅を危惧されています。日本には九州などに約 2,000 羽が飛来し、越冬します。金剛川河口は藤前干潟と共にズグロカモメが定期的に越冬する東端に位置すると言えるでしょう。

#### 吹井の浦のカモメ類

櫛田川から中の川にかけての吹井の浦には冬に多くのカモメ類が飛来し、越冬します。一般的なセグロカモメ、ユリカモメ、ウミネコだけでなく、

オオセグロカモメも混じります。冬期にはカモメ、シロカモメ、ワシカモメなどが飛来することもあります。カモメ類は中ノ川よりも西側の明和町の大淀(おいず)海岸ではさらに多く観察されます。

#### 静かな中ノ川

中ノ川(松阪市)は平野の中を蛇行する小さな川です。鳥は多くありませんが、流れにはヨシやガマが生育し、河畔にはエノキがあります。静かな川筋を楽しむのに格好な場所です。ヨシの陰ではアオサギがじっと獲物を待っていることでしょう。



オオヨシキリ (撮影：西村四郎)



中の川

## コアシサシ保護作戦顛末記

小野 新子 (松阪市)

コアシサシ (チドリ目 カモメ科) L 25  
ユーラシア大陸中緯度で繁殖し アフリカからオーストラリアの沿岸で越冬。日本では本州以南に夏鳥として渡り繁殖するが繁殖地の減少にともない数が減ってきている。(ウイキペディアより) **絶滅危惧種**

我が雲出川河口でも 50 羽~100 羽のコアシサシが毎年初夏にやって来るが やはり繁殖に適した場所が少なく 折角産み落とされた卵も人に踏まれたり潮に流されたりと繁殖率が非常に少ない・・・

と言う訳で デコイを作って安全地帯に誘導することになった。デコイと言えば 鳥島の山科鳥類研究所チームのアホドリ保護活動が有名だが「デコイ」って いったいどう作るの？いろいろ検索してみるがこれと言った情報はない。それなら自分なりに作ってみるしかない(別に頼まれた訳でもないが・・・) 作ることは好きだから。

くちばしは百均の竹の割りばしがぴったりこれ主婦の勘(テレビの見すぎ?) 早速スーパーへ材料調達 好きなことはすぐ行動に移すのが私流。割りばしで実物大の形を作り 古いタオルで作った砂袋と布で補強をして骨組みができた。これに紙粘土で形成する・・・と ここで自分がまだ上空でびゅんびゅん飛んでいるコアシサシの姿しか見たことがないことに気がついた。本物ってどんなの? 前後左右よくわからないまま 二次元の写真から立体を制作するって結構むずかしい(その反対は得意なんだけどな!) それでも何とかそれらしきものができた。 2日~3日乾かし絵具で色をつけ ニスを塗ってコアシサシのデコイ完成。早速担当の方に鑑定してもらい合格 この方法で進めることになった。

とは言うものの 大勢の人に骨組みから作ってもらうのはとても無理 と言うよりは自分の考えを説明するのが面倒? だったら粗

方作っておくより他ない。時期外れのせいかな肝心の紙粘土が店頭が無い! 慌ててかき集めてもらったら今度は 27 個も集まってしまった(予定は 20 個) 仕方がないので 28 個分の骨組と砂袋の準備をする(好きな事とは言え・・・歳が邪魔をする)。

5月28日 有志 16 人が集まり 営巣近くの「お食事処」の野外炊飯を借りてデコイ作り開始。(写真はその様子)



老いも若きも童心に戻ったように嬉々として粘土細工に夢中になった。地方紙の新聞記事にその様子が記されていた中に「模型の頭部を上向きや横向きに工夫をこらし・・・」と苦戦ぶりが 好いように表現されていたのには苦笑してしまった。午後小雨降る中 設置予定の草取りをする。上空でたくさんのコアシサシがキキキ鳴きながら大騒ぎしている。二か所にそれぞれ一個ずつ卵が産んであった。

6月2日 色つけ ニス塗り。みごとなそして少々メタボ気味のコアシサシのデコイが完成。色をつけたらそれらしく見えてきた。午後 設置場所の環境を再度整える。大潮と雨のためか河川敷を波が洗い 先日の巣が確認できない。

6月4日 コアシサシ模型設置。設置は A 地点 (12 個) B 地点 (5 個) C 地点 (5 個) と模型の数をええ様子を見ることにした。草取り 清掃 河川敷の営巣場所に綱を張り 注意喚起の看板を設置。国土交通省三重河川事務所に届けを出し受理される。この日はコアシサシ 3 羽が飛翔 果してデコイを仲間と認めてくれるかどうか?

(以下は交代で観察した記録。観察は営巣地には下りずに遠く堤防から観察することにした)

6月5日 約30羽のコアジサシが上空を飛翔内12羽が営巣地に降り模型に関心を示した様子。デコイの効果ありと判断。

(写真はデコイに挨拶するコアジサシ)



6月6日 飛翔個体9羽 卵1個 (A地点)

6月7日 総数約40羽 内20羽ほどが営巣場所に降りている。飛んだり降りたりしている中で5羽〜7羽が座ったまま動かない。抱卵中あるいは産卵中と思われるが 遠距離観察のため詳しくはわからない。

6月8日 個体数100羽以上。ハヤブサの出現で1羽が捕食される。その日の夕方にはコアジサシの姿がなくなった。ハヤブサの影響か……

6月9日 個体数15羽〜16羽 A地点に3羽が座っている。プレゼントの魚をくわえてうろうろしている個体あり。

6月10日 飛翔個体3羽 16時には姿なくカラスが営巣地をうろついていた。

6月11日 コアジサシの姿なく 食べられた卵の殻が2個散乱……

デコイに興味を示してくれた時は「できすぎじゃないの?」と小躍りして喜んだが 自然界はそう甘くはなかった。ハヤブサの出現には痛し痒しと言ったところだが……しかしこのプロジェクトはまだ始まったばかり それに当地における過去の繁殖時期は6月下旬から7月中旬が最盛期とか コアジサシの数をもっと増して来ればカラスも寄り付けないだろうし等々自分をなぐさめてみるが……しかし人間が手をだせるのはここまで 何はともあれ 末長く遠くからそっと見守るしかない。  
**がんばれ コアジサシ!**

こんな夢を見た



後日談

思わぬハヤブサ・カラスの襲撃に多くのつがいは抱卵をあきらめ、心配したが、一つがいがデコイの側で辛抱強く抱卵。猛暑続きの中、7月5日に2羽が無事に孵化。日毎の成長をそっと見守り無事の巣立ちを待ちたいと思います。来年の集団営巣への夢も膨らみます。(YO)

## 2011年度日本野鳥の会三重 総会

2011年度日本野鳥の会三重の総会が、5月15日(日)午後1時30分より、津市にある三重県教育文化会館で行われました。参加者は、昨年度とほぼ同数の26名でした。

今年度は会の名称が変更されて初めての総会で、新役員の改選年となりました。

総会は以下の進行で行われ、議事①～⑤が承認されました。また、総会后に名城大学の橋本啓史氏による講演「琵琶湖の水鳥の分布と個体数変化」がありました。

1. 開会
  2. 代表挨拶
  3. 議長の選出
  4. 議事録署名人の指名
  5. 議事
    - (1) 2010年度活動報告 【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
    - (2) 2010年度決算報告、監査報告 【事務局会計担当、監事】
    - (3) 2011年度役員候補(案) 【事務局】
- 新役員挨拶
- (4) 2011年度活動計画(案) 【保護部、研究部、編集部、企画部、事務局】
  - (5) 2011年度予算(案) 【事務局会計担当】
6. その他(連絡等) 野鳥講座について
  7. 閉会

\*\*\*\*\*





## 2010年度 活動報告

### 2010年度 保護部活動報告

#### A：風力発電計画

A-1：白猪山＝ 準備書に対して意見提出＝クマタカの生息・繁殖、サシバ等の渡りの重要な通過地であり、計画に反対し、2010年5月27日松阪市長へ申し入れた。計画はその後進行していない。

#### A-2：青山高原風力発電増設事業

鳥類調査の不備、クマタカの生息・繁殖、ノスリの採餌・繁殖、ヨタカの生息・繁殖、フクロウの採餌などへの影響について指摘し、準備書への意見提出（2010年6月8日）、意見陳述（9月18日）した。さらに評価書への意見を提出した。

#### B：猛禽の保護調査

中勢地方オオタカ調査＝県からの委託継続して行っている。2010年は繁殖成功、2011年も順調に抱卵している模様（後日残念ながら、失敗が確認された。）

北勢地方クマタカ調査＝自主調査として継続 2010年は営巣木が失われ、失敗した。

#### C：木曾岬干拓地問題

2010年7月18日名古屋国際会議場にてチュウヒサミット開催（210名参加）

#### D：藤原岳イヌワシの保護

太平洋セメントの新規事業（治田鉱区および山頂鉱区）で営巣地付近が採掘される危険性あり、2010年1月に県に質問状、2010年4月に県担当者と会談した。

同社開発担当者と会談 2010年8月、11月、本会の意向を伝えた。

本部、猛禽類保護関係者と話し合い、問題の公表に踏み切った。

本部と連名で、社長に対し申し入れ、同時に記者発表した。（2011/1/18）

奈良県支部、愛知県支部、日本野鳥の会滋賀からも同社宛に要請文が提出された。

猛禽研究の専門家とも相談している。

イヌワシ調査を2010年秋から開始した。（2011年春から本格的調査開始）

#### E：中勢海岸保護

環境省が豊津浦～町屋浦、および愛宕川～櫛田川河口をラムサール候補地にリストアップした。前者ではミュビシギ、後者ではズグロカモメの生息数がリストアップの決め手となった。

安濃川河口でミヤコドリが104羽（東アジアルート生息数の1%=100）を記録した。会報へ中勢海岸のページを連載している。

（2回を予定）

雲出川コアジサシコロニー保護を行ったが、砂洲の巣が大潮満潮時に水没し繁殖に失敗した。



### 2010年度 研究部活動報告

#### 1. 委託調査

○県委託ガンカモ類及びカワウ一斉調査

1月中旬（172ヶ所：35名）

○県委託カワウねぐらコロニー調査

年3回(7月、12月、3月)(17ヶ所:19名)  
2. モニタリングサイト1000(環境省生物多様センター)

○シギ・チドリ類調査 5地点

(雲出川河口五主海岸、 鈴鹿川河口～鈴鹿派川河口、安濃川河口～志登茂川河口、愛宕川～櫛田川河口、豊津浦～町屋浦)

※各地で年3回(春期、秋期、冬期)

なお、本年より香良洲海岸が新たに加わった  
(保護部加筆)



オオジシギ

### 2010年度 編集部活動報告

会報「しろちどり」

第64号 2010年6月12日発行

第65号 9月26日発行

第66号 2011年1月23日発行

### 2010年度 企画部活動報告

省略

### 2010年度 事務局活動報告

#### 1. 総会

2010年 5月23日(日) 三重県総合文化センター 中会議室

#### 2. 理事会

第1回 2010年 5月23日(日) 三重県総合文化センター

第2回 11月14日(日) 津市雲出市民センター

第3回 2011年 3月13日(日) 津市雲出市民センター

## 2011～2012年度 役員

理事・監事候補

<北勢地区> 近藤義孝

<伊賀地区> 前澤昭彦 小林達也

<中勢地区> 平井正志 石原 宏 岡 八智子 服部公子

<松阪地区> 西村四郎

<東紀州地区> 中井節二

<南勢地区> 中西 章 小坂里香 西村 泉

※下線は新役員候補

注:総会では新役員候補として村田芳雄さんが承認を受けましたが、当方の確認不足から誤って掲載してしまいました。取り消しさせていただくと同時に、改めてお詫びいたします。誠に申し訳ありませんでした。

なお 総会中に第1回理事会が開かれ、  
互選により次のよう役割が決定し、総会で披露された。

代表	平井正志
副代表	近藤義孝
事務局長	西村 泉
会計担当	中西 章
研究部長	前澤昭彦
企画部長	西村四郎
編集部長	近藤義孝
保護部長	平井正志

## 2011年度活動計画

### 2011年度 保護部活動計画

#### A：藤原岳イヌワシ保護

治田鉦区での開発には反対。山頂鉦区での開発については採餌場所と想定されるので、基本的には開発すべきでない。

行動圏の調査を1年間継続する。太平洋セメントとの会談を継続する。準備書が提出された場合には意見を述べる。

#### B：木曾岬干拓地 チュウヒ繁殖調査を継続

両県へ干拓地全体を保護区とするよう申し入れる。

#### C：猛禽調査（オオタカ、クマタカ）を継続する。

#### D：中勢海岸保護

コアジサシコロニー保護を行う（デコイ、整地など）

ミヤコドリ一斉カウントを定期化する。

広報用パネルを作成 HP作成

海岸清掃を定期化する。

自治体等への働きかけを行う。

### 2011年度 研究部活動計画

今後もガン・カモ調査、カワウねぐらコロニー調査、シギ・チドリ調査を行っていく。

### 2011年度 編集部活動計画

「しろちどり」年間3～4号発行予定

### 2011年度 事務局活動計画

#### 1. 総会

2011年5月15日（日） 三重県教育文化会館

#### 2. 理事会

第1回 2011年 5月15日（日）

第2回 8月21日（日）

第3回 11月 6日（日）

第4回 2012年 3月11日（日）

## 2011年 企画部活動計画

### 1. 探鳥会

月	全県	北勢	津	松阪	南勢	伊賀	東紀州
4月		10日(日) 篠立林道 24日(日)木曾岬干拓地	17日(日)観音山	24日(日)五主	23(土)五十鈴川		
5月	15(日) 総会	7日(土)朝明源流 8日(日)県民の森 17日(火)海蔵川 22日(日)木曾岬干拓地	14日(土)伊勢上野城 21日(土)美杉	13日(金)金剛川	8日(日)剣峠	22日(日)森林公園	
6月		26日(日)木曾岬干拓地				5日(日)曾爾高原	
7月		24日(日)木曾岬干拓地					
8月		28日(日)木曾岬干拓地			6日(土) 外城田川ねぐら入り		
9月		13日(火)海蔵川 18日(日)多度山 25日(日)木曾岬干拓地	11日(日)町屋白塚	4日(日) 松阪曾原大池 25日(日) 高見タカ渡り		25日(日) 法花タカ渡り	
10月		23日(日)木曾岬干拓地			1日(土) 伊勢タカ渡り 2日(日) 鳥羽タカ渡り		16日(日) 御浜町市木川
11月		23日(水)海蔵川 27日(日)木曾岬干拓地	12日(土)香良洲海岸	6日(日)中村川	27日(日)大仏山		
12月		4日(日)員弁川 25日(日)木曾岬干拓地	23日(祭)横山池	4日(日)ヘルファーム		4日(日)比自岐	
1月		22日(日)木曾岬干拓地			29日(日)大淀海岸	29日(日)真泥池	22日(日)銚子川
2月		12日(日)木曾三川 26日(日)木曾岬干拓地			26(日)五十鈴公園		
3月		4日(日)石垣池 13日(火)海蔵川 25日(日)木曾岬干拓地	18(日)安濃川	25日(日)なめり湖			
	52	23	7	7	8	5	2

### 2. 野鳥講座

5月15日 総会終了後

講師：名城大学 橋本啓史（ひろし）氏

演題：琵琶湖の水鳥の分布と個体数変化



日本野鳥の会 三重 23年度(2011年度)予算書

23年度 自2011年4月1日 至2012年3月31日

単位:円

科目	22年度実績 一般・特別合算	23年度予算 一般・特別合算	比較増減	備考	23年度予算会計区分	
					一般会計	特別会計
<事業高>						
支部会費	682,000	682,000	0	2000円×341人	682,000	0
受託収入	3,097,500	3,097,500	0	前年並み	0	3,097,500
受取補助金	92,500		-92,500	チュウヒサミット減	0	0
受取寄付金	7,000	10,000	3,000		10,000	0
事業高合計	3,879,000	3,789,500	-89,500		692,000	3,097,500
事業利益	3,879,000	3,789,500	-89,500		692,000	3,097,500
<事業管理費>						
支払調査費	2,048,400	1,860,000	-188,400	オオタカ・カワウ報酬減	0	1,860,000
報告費	180,000	172,000	-8,000	オオタカ減	0	172,000
雑損費	177,000	177,000	0		0	177,000
通信費	389,147	360,000	-29,147	送料等減	177,372	182,628
印刷費	232,345	145,000	-87,345	チュウヒサミット減	129,535	15,465
消耗品費	104,515	250,500	145,985	パネル・トランシーバ購入	107,442	143,058
減価償却費	0	0	0			
会場費	10,650	9,000	-1,650		3,302	5,698
会議費	1,965	3,000	1,035		558	2,442
旅費交通費	486,820	753,500	266,680	イヌワシ調査増	654,802	98,698
支払手数料	52,500	52,500	0		9,767	42,733
講師謝礼金	20,000	20,000	0		20,000	0
図書費	0	0	0		0	0
寄付金	0	0	0		0	0
諸会費	5,000	5,000	0		5,000	0
雑費	58,098	59,000	902		32,419	26,581
事務費	83,000	83,000	0		0	83,000
保険費	44,800	45,000	200		0	45,000
一般管理費合計	3,894,240	3,994,500	100,260		1,140,197	2,854,303
事業総利益	-15,240	-205,000	-189,760		-448,197	243,197
<事業外収益>						
受取利息	1,077	1,000	-77		1,000	0
雑収入	15,000	15,000			15,000	0
事業外収益合計	16,077	16,000	-77		16,000	0
当期純利益	837	-189,000	-189,837		-432,197	243,197
<税金等>						
法人税等	82,900	111,000	28,100		0	111,000
税引後利益	-82,063	-300,000	-217,937		-432,197	132,197

## 事務局だより

本会の活動記録（2011年4月～6月）

- 4/9 藤原岳イヌワシ保護について猛禽類専門家に面会
- 4/17 代表ら部長会議
- 4/19 平成23年度第1回三重県自然環境保全審議会を傍聴
- 4/24 ラムサール・ネットワーク日本による「湿地のグリーンウェイブ」イベントに「五主海岸探鳥会」で参加
- 4/25 県委託「平成23年度生物多様性 安部・七郷池地区防災ダム事業環境調査」入札
- 4/27 太平洋セメント（株）関連会社「イシザキ」を訪問
- 4/30 会報「しろちどり第67号」発行・発送作業
- 5/8 2010年度決算について監査が行われた。
- 5/28 有志による五主海岸清掃作業・コアジサシデコイ製作作業
- 5/30 太平洋セメント（株）・イシザキ・環境保全事業団と面談
- 5/31 （株）荒谷建設コンサルタントに面会（南伊勢町・度会町に計画中の風力発電事業に伴い、環境調査を行うための地元聞き取り調査）
- 6/6 五主海岸一帯における県の「閉鎖性海域再生漁場環境保全創造事業」について現地説明会があった。
- 6/6 県環境森林部へ挨拶・面談
- 6/25～26 第19回中部ブロック会議（富山）に参加
- 今後の予定
- 7 会報「しろちどり第68号」発行
- 8 第2回理事会



<b>取扱商品</b>
フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
<b>取扱メーカー</b>
KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他

**中部地区最大の光学製品専門店**

**TELESCOPE CENTER EYEBELL**

テレスコープセンターアイベル（株式会社アイベル）  
〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119  
定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00～19:00  
ホームページ <http://www.eyebell.com> メールアドレス [eyebell@diamond.broba.cc](mailto:eyebell@diamond.broba.cc)

## 理事会報告

第4回 (2011年5月15日)  
三重県教育文化会館 出席者8名

### 【協議事項】

- 総会・野鳥講座準備
- 藤原イヌワシについて  
観察を始めた。準備書について内容を聞く予定だが、  
治田鉦区は実質中止となりそう。
- コアジサシ保護  
現地の状況を確認し、デコイ製作の準備にとりかかる。
- 会報について  
編集体制の強化 原稿集めに代表が窓口となる。

=====

## 野鳥記録

2011年6月末までに報告のあったもの

種名	個体数	記録日	場所(通称など)	記録報告者	写真	備考
カラムクドリ	♂2♀1	2011/1/21	南牟婁郡御浜町市木	中井節二	あり	2月2日まで観察
ムネアカタヒバリ	1	2011/3/10	熊野市有馬町	中井節二	あり	
クロツラヘラサギ	1	2011/4/11	松阪市金剛川河口	中村洋子	あり	1日だけの滞在
コシャクシギ	1	2011/4/25	松阪市五主	今井光昌	あり	4月26日まで観察
シベリアムクドリ	1	2011/4/30	北牟婁郡紀北町海山区小山浦	世古雄也	あり	5月3日まで観察
カラムクドリ	1	2011/5/1	南牟婁郡御浜町市木	中井節二	あり	
クロツラヘラサギ	1	2011/5/9	鈴鹿派川河口	辻秀之	あり	5月10日まで観察
クロハラアジサシ	100以上	2011/5/30	南牟婁郡紀宝町鶺鴒殿	中井節二	あり	6月3日まで観察
ハジロクロハラアジサシ	約10	2011/5/30	南牟婁郡紀宝町鶺鴒殿	中井節二	あり	6月3日まで観察
エリグロアジサシ	1	2011/5/30	南牟婁郡紀宝町鶺鴒殿	中井節二	あり	
アカガシラサギ	1(夏羽)	2011/6/2	南牟婁郡御浜町市木	中井節二	あり	夏羽 注1

注1： 6月23日に御浜町有馬でも観察、おそらく同一個体  
なお、報告者は第一発見者とは限りません。記録の正確性を把握するため、氏名を公表します。  
次ページに主な写真を掲載します。

## 観 察 記 録 募 集！

支部のHP [http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/index.htm](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/index.htm) から簡単に投稿できます。支部報に掲載できない記録もデータとして保存しています。ぜひご協力ください。



エリグロアジサシ (中井撮影)



コジャクシギ (今井撮影)



アカガシラサギ (中井撮影 : 2011年6月23日)



## 探鳥会報告 (2011年3月～6月)

### ● 石垣池探鳥会

2011年3月6日(日) 10:00～12:00

鈴鹿市石垣3丁目 石垣池

市川雄二 市川美代子

参加者20名(会員9名)

カンムリカイツブリ(1)、カワウ(6)、アオサギ(1)、カルガモ(10)、コガモ(20)、ヨシガモ(10)、ヒドリガモ(22)、ハシビロガモ(4)、ホシハジロ(2)、キジバト(10)、コゲラ(2)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(4)、ヒヨドリ(3)、モズ(3)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(2)、シジュウカラ(2)、メジロ(10)、ホオジロ(3)、カワラヒワ(4)、スズメ(10)、ハシボソガラス(1)、ハシブトガラス(1) 計24種

好天の中、カモ類カワウなど24種を確認した。市広報に案内を掲載していただき、一般の方の参加が多く20名であった。秋季石垣池の池干しによって水位が下がって、カモ類が見られるか心配したが、水量も回復し6種のカモ類がみられた。中の島のカワウは営巣木がほぼ全滅に近く、20本ほどが残っている。カワウの営巣は1番だけであった。

### ● 勝田大池探鳥会

2011年3月6日(日) 9:00～11:00

玉城町勝田 勝田大池

小坂里香 西村 泉

参加者5名(会員5名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、アオサギ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミコアイサ、トビ、ノスリ、オオバン、ケリ、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、アオジ、カワラヒワ、ベニマシコ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計38種

穏やかな探鳥会日和だったが、参加者が少なく寂しい探鳥会となった。

勝田大池は、内陸の池にしては色々なカモが飛来する。今回もミコアイサが観察され、オオバンも約40羽いた。

この日は釣り客が多く、なかにはボートをこぎ出す人もいた。これでは越冬するカモ達が安心して

て休むことができない。一度、関係機関へ問い合わせたいと思う。

### ● 篠田山探鳥会

2011年3月13日(日) 9:30～11:00

松阪市久保町 篠田山

水森和子 小津みゆき

参加者17名(会員14名)

トビ、ノスリ、サシバ、キジバト、コゲラ、ヒバリ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、メジロ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、カワラヒワ、イカル、シメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ 計25種

前日の下見のときにイカルが100羽近く群れていました。当日、参加者の方達に見ていただきたいと思っていました。100羽は無理でしたが、イカル、カシラダカ、カワラヒワが枯れ木に田んぼにと、数十羽群れていたのを確認して、参加者の方達に喜んでいただきました。

### ● 海蔵川探鳥会

2011年3月15日(火) 9:40～12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

尾畑玲子 高 和義

参加者12名(会員8名)

カイツブリ(3)、カワウ(1)、カルガモ(16)、キンクロハジロ(3)、タカ sp(2)、ヒクイナ(1)、バン(4)、キジバト(5)、カワセミ(1)、ヒバリ(1)、キセキレイ(1)、ハクセキレイ(5)、セグロセキレイ(1)、ヒヨドリ(4)、モズ(3)、ジョウビタキ(1)、ツグミ(1)、ウグイス(2)、シジュウカラ(2)、メジロ(7)、ホオジロ(9)、カシラダカ(2)、カワラヒワ(6)、イカル(10)、スズメ(7)、ムクドリ(6)、ハシボソガラス(6)、ハシブトガラス(2)、ドバト(9) 計29種

前日までの寒さから開放され、嬉しい好天にめぐまれた。毎年冬鳥と夏鳥の両方を楽しめるこの時期だが、下見では3羽をみとめたツバメに会えなかったのがちょっと残念。でもイカル、カシラダカ、ヒクイナの出現に参加者は湧いた。

海蔵川中流の環境はまだまだ健在。しかし近くで道路建設の予定もあり、今後どのように変わっていくのか目がはなせない。

海蔵川探鳥会を永い間支えてくださった皆さん、本当にありがとうございます。リーダーとサブリーダーは世代交代しますが、新リーダーに代わ

っても今までと同様よろしくお願いたします。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年3月27日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催  
団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静

参加者14名(会員7名)

カイツブリ(9)、カワウ(30)、ダイサギ(7)、コサギ  
(2)、アオサギ(2)、マガモ(3)、カルガモ(30)、コガ  
モ(22)、オカヨシガモ(174)、ハシビロガモ(11)、  
ホシハジロ(5)、キンクロハジロ(20)、ミコアイサ  
(11)、ミサゴ(1)、トビ(1)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、  
チュウヒ(1)、キジ(9)、コチドリ(3)、ケリ(10)、  
クサシギ(2)、イソシギ(3)、カモメ(7)、キジバト(5)、  
カワセミ(2)、ヒバリ(15)、ハクセキレイ(7)、タヒ  
バリ(2)、ヒヨドリ(2)、モズ(2)、ジョウビタキ(3)、  
イソヒヨドリ(1)、ツグミ(7)、ウグイス(1)、シジ  
ュウカラ(1)、ホオジロ(3)、アオジ(3)、カワラヒ  
ワ(70)、スズメ(100)、ムクドリ(20)、ハシボソガ  
ラス(50)、ハシブトガラス(50)、ドバト(30)  
計44種

3月になったが、カモの仲間もたくさん残って  
いてくれた。木曾岬干拓地の水路にはミコアイサ  
も見ることができた。



チュウヒ

● 藤原町篠立林道探鳥会

2011年4月10日(日) 9:00~14:00

いなべ市藤原町 篠立林道 共催団体:藤原岳自  
然探査会

加藤光廣 高橋賢二

参加者14名(会員6名)

トビ、サンバ、コゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、

しろちどり 68号

ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カ  
ワラヒワ、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガ  
ラス 計13種

林道から遠くの山にかすむタムシバの白い花を  
見つつ、トラツグミの声に驚く参加者があった。  
林道沿いにはカタクリ、ダンコウバイ、シロモジ、  
アブラチャンなどの花が見事であり、観察会を楽  
しい会にしてもらった。

● 関・観音山探鳥会

2011年4月17日(日) 10:00~12:00

亀山市関町 観音山(関ロッジ周辺)

伊藤多紀子 服部公子

参加者12名(会員12名)

オオタカ、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、  
シロハラ、ウグイス、オオルリ、エナガ、ヤマガ  
ラ、メジロ、カワラヒワ、マヒワ、シメ、カケス、  
ハシボソガラス 計16種

春たけなわ絶好の観察日和。参加者の半数以上  
が初めてという観音山は、木々の芽は吹き桜花は  
満開、そこへ野鳥が来る。マヒワの少群とエナガ  
等が餌取りをされていて、そこでマヒワの順光と逆  
光での羽根色の違いをゆっくりと観察した。終わ  
りに近づいたころオオルリの出番。天空にはオオ  
タカが舞い最高の探鳥会になりました。

● 五十鈴川上流探鳥会

2011年4月23日(土) 6:30~7:30

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊

参加者1名(会員1名)

カワウ、キジバト、コゲラ、ツバメ、セグロセキ  
レイ、ヒヨドリ、カワガラス、ウグイス、ヤマガ  
ラ、シジュウカラ、メジロ、イカル、ハシボソガ  
ラス、ハシブトガラス、ヤマドリ 計15種

雨のため参加者はリーダーのみ。新緑、照葉樹  
落葉の季節、雨のため普段より自転車・ランナー  
等の通行も少なく、鳴き声を集中して聞くことが  
できた。ヤマドリが道路に降りてきて至近距離で  
観察でき非常によかった。カジカガエルの鳴き声  
も響き、雨ながら気持ちのよい観察ができた。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年4月24日(日) 9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催  
団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

米倉 静 森井豊久

参加者10名(会員6名)

カイツブリ(2)、カワウ(30)、ダイサギ(3)、コサギ(6)、アオサギ(10)、カルガモ(30)、コガモ(60)、ハシビロガモ(60)、ホシハジロ(1)、ミサゴ(3)、チュウヒ(4)、キジ(10)、コチドリ(1)、ケリ(30)、クサシギ(2)、イソシギ(3)、チュウシャクシギ(17)、キジバト(10)、ヒバリ(15)、ツバメ(3)、ハクセキレイ(1)、ノゴマ(1)、ツグミ(5)、ウグイス(3)、セッカ(5)、ヤマガラ(1)、シジュウカラ(2)、メジロ(1)、ホオジロ(7)、アオジ(1)、カワラヒワ(1)、シメ(1)、スズメ(50)、ムクドリ(20)、ハシボソガラス(60)、ハシブトガラス(60)、ドバト(40) 計37種

野鳥園方向へチュウヒ♀が行くと後を追うように♂がディスプレイ飛行を見せる。港内は静になったが飛べないホシハジロが1羽残る。木曾岬干拓は遠いがチュウヒと魚持ちのミサゴを見た帰り、ノゴマの音が聞こえた。

#### ● 五主探鳥会

2011年4月24日(日) 9:30~11:30

松阪市 五主海岸

西村四郎 小野新子

参加者25名(会員25名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、チュウサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、コガモ、ヨシガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、シマアジ、ハシビロガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、トビ、オオバン、ミヤコドリ、コチドリ、シロチドリ、ケリ、ハマシギ、ツルシギ、アオアシシギ、イソシギ、チュウシャクシギ、タシギ、セイタカシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、キジバト、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、セッカ、ホオジロ、スズメ、コムクドリ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計47種

雲出川河口は満潮の時間帯で、少ないカモ・カモメ類を観察した後大池に移動しました。大池では、アオアシシギ、セイタカシギ、夏羽になったツルシギや、シマアジをはじめ残っているカモ類が観察できました。ツルシギがカモの群れの中で泳ぐ姿や、コムクドリの集団での飛翔、チュウシャクシギの汎翔など最後は満足できる内容でした。

#### ● 朝明源流探鳥会

2011年5月7日(土) 9:30~15:30

三重郡菰野町 朝明溪谷

辻 秀之 川口久美

参加者7名(会員4名)

キジバト、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、センダイムシクイ、オオルリ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、イカル、カケス、ハシボソガラス、ハシブトガラス 計18種

曇り空の中を歩き始めたが、程なく小雨模様となった。天気の良い日で鳥の出はよくないが、登山道はよく整備されて歩きやすかった。

12時過ぎにブナ清水と呼ばれる源流部に到着すると天気も回復し、イカルやヒガラ、ミソサザイのさえずりの中昼食。

下山路ではオオルリの姿もスコープでゆっくり観察できた。



テリハノイバラ

#### ● 県民の森探鳥会

2011年5月8日(日) 10:00~12:00

三重郡菰野町 三重県民の森 共催団体/三重県民の森

市川雄二 尾畑玲子

参加者13名(会員9名)

キジバト(1)、コゲラ(1)、ヒバリ(1)、サンショウクイ(1)、ヒヨドリ(6)、ウグイス(3)、キビタキ(1)、コサメビタキ(2)、ヤマガラ(1)、メジロ(3)、ホオ

ジロ(1)、カワラヒワ(4)、イカル(2)、ムクドリ(4)、ハシブトガラス(2) 計15種

五月晴れの日、参加者13名(会員外4名)が集合場所である「ふれあいの館」前に集合。自己紹介、行程説明や今回のテーマである野鳥の調査法を簡単に述べて出発。なんと最初にサンショウクイの鳴き声で盛り上がった。

学習展示館の中の写真や野鳥の剥製標本を見て、野鳥に関する知識を身につけ、東側のエリアをルートに選び、ロードセンスを行った。

ウグイスやキビタキ、サンショウクイ、イカルなど15種の野鳥を観察することができた。なかでも美しく複雑に鳴く声の持ち主、キビタキの姿を時間をかけて探し、参加者全員が確認できた喜びは格別であった。

テーマに野鳥の調査法を取り入れたが、会員でも探鳥歴また回数が少ない方が多く、むしろ野鳥の種類をゆっくりと見る方が良かったようだ。開催場所は良かった。いろんな野鳥が見られ喜んでもらったと思う。環境の変化は特に認められなかった。

#### ● 剣峠探鳥会

2011年5月8日(日) 7:00~10:30

伊勢市 剣峠

林 淳子 高木和夫

参加者15名(会員15名)

アオバズク、コゲラ、ヒヨドリ、トラツグミ、ヤブサメ、ウグイス、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、エナガ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、イカル、カケス、ハシブトガラス 計17種

ここ、二三日天候が不順で気温も上がらなかったが、今日やっと気温も上昇し天候は申し分なかった。

夏鳥たちの囀りは期待はずれだったが、新入会員のFさん(津市)を迎え、この日は車の往来もほとんどない貸切状態で、峠の道を和気藹々でゆっくり散策しながら鳥影を追いました。

#### ● 金剛川河口探鳥会

2011年5月13日(金) 9:30~11:30

松阪市高須町 金剛川河口

中村洋子 水森和子

参加者12名(会員12名)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサ

しろちどり 68号

ギ、マガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、ホシハジロ、トビ、ダイゼン、ケリ、ハマシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、ダイシャクシギ、チュウシャクシギ、コアジサシ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ウグイス、オオヨシキリ、セッカ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 計32種

風が強く吹いていて、鳥を見るのは大変でしたが、チュウシャクシギが沢山いて、ダイシャクシギとの嘴の長さや曲がり方の違いが比較できました。

#### ● 伊勢上野城跡探鳥会

2011年5月14日(土) 10:00~12:00

津市河芸町 伊勢上野城跡

岡 八智子 斉藤加代子

参加者9名(会員9名)

ミサゴ、キジバト、コゲラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、センダイムシクイ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計15種

冬鳥が去って、いちばん鳥のいない時期でしたが、“お江”ゆかりの歴史散策を楽しむことができました。付近一帯落ち葉が残されているので、冬の探鳥会を再度やらねば、と思います。最後にセンダイムシクイの声を聞いたので良かったです。

#### ● 海蔵川探鳥会

2011年5月17日(火) 9:40~12:00

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬 裕之

参加者12名(会員9名)

カイツブリ、カワウ、アマサギ、チュウサギ、アオサギ、カルガモ、キジ、ヒクイナ、バン、ケリ、キジバト、カワセミ、ヒバリ、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計26種

生憎の曇り空で今にも雨が降り出しそうな天気ではじまりました。気温は20℃程あったものの、風が幾分強くじっとしていると肌寒いくらいでした。

前半は鳥の出が悪く、カワラヒワやムクドリなどの小鳥たちが出迎えてくれました。後半に入り、



ようやくサギ類が顔を出してくれました。いつも沢山見られるカルガモがめっきり見られませんでした。カワセミも忙しそうに休むこと無く一直線に飛び去っていきました。

● 美杉探鳥会

2011年5月21日(土) 16:30~20:30

津市美杉町川上 三重大学演習林 共催団体/三重大学

坂元伸治 川口久美

参加者9名(会員7名)

ジュウイチ、ツツドリ、コノハズク、ヨタカ、アカショウビン、アオゲラ、キセキレイ、ヒヨドリ、ミソサザイ、ウグイス、オオルリ、ヒガラ、ホオジロ、カケス 計14種

北斗七星がくっきり見えるよい天気のもと、オオルリ、ミソサザイ、アカショウビンの鳴き共演の中、夜になってコノハズクの鳴きやまない声の中でのヨタカ、ジュウイチ、ツツドリの競演で、非常にすばらしいものでした。

今回は少人数でしたが、全員たっぷりと楽しみました。次回は是非ともご来山下さい。非日常を楽しみましょう。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年5月22日(日) 9:00~11:30

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 森井豊久

参加者7名(会員4名)

カイツブリ(1)、カワウ(40)、ダイサギ(3)、コサギ

(2)、アオサギ(2)、カルガモ(50)、ミコアイサ(1)、チュウヒ(1)、キジ(10)、バン(1)、コチドリ(7)、ケリ(50)、クサシギ(2)、イソシギ(2)、チュウシャクシギ(1)、コアジサシ(15)、キジバト(20)、ヒバリ(30)、ツバメ(30)、ハクセキレイ(1)、オオヨシキリ(10)、セッカ(30)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(5)、スズメ(50)、ムクドリ(10)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(100)、ドバト(10) 計30種

前日のような強い直射日光はなかったが、木曾岬干拓地を観察しているときに急にわか雨が降り始めた。水田ではケリがなわばりを守っていた。14羽のヒナをつれたカルガモも観察できた。

● 上野森林公園探鳥会

2011年5月22日(日) 9:30~11:30

伊賀市 上野森林公園 共催団体/上野森林公園・県環境学習センター

前澤昭彦 木村京子

参加者31名(会員4名)

カイツブリ、キジバト、コゲラ、ツバメ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、オオヨシキリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、ハシボソガラス、コジュケイ

計15種

3団体の共催による探鳥会で参加者も多く、はなやいだ雰囲気の中で実施できた。雨で途中から室内会に切り替えて、主に鳥のさえずりについて話し合いを進めた。



● 曾爾高原の野鳥探鳥会

2011年6月5日(日) 8:30~12:00

奈良県曾爾村 曾爾高原

田中豊成 小林達也

参加者17名(会員9名)

カワウ、ダイサギ、アオサギ、トビ、アオバト、カッコウ、ヤマセミ、アオゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、ウグイス、セッカ、ホオジロ、ホオアカ、イカル、ハシボソガラス、ハシブトガラス、コジュケイ 計22種

曾爾高原への道中の香落溪でも観察した。曾爾高原では、ヒバリ、ホオアカ、ホオジロ、セッカが見られ、カッコウ、アオバトの声も堪能できた。帰路の香落溪でオシドリ♀親とヒナ3羽を観察した。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2011年6月26日(日) 9:00~11:30

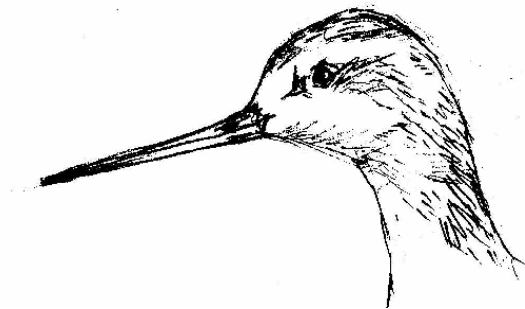
愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地 共催団体/愛知県野鳥保護連絡協議会

近藤義孝 米倉 静

参加者7名(会員5名)

カワウ(60)、ダイサギ(3)、チュウサギ(5)、アオサギ(7)、カルガモ(20)、ミコアイサ(1)、ミサゴ(1)、オオタカ(1)、ハヤブサ(1)、キジ(3)、コチドリ(2)、ケリ(10)、クサシギ(1)、コアジサシ(20)、キジバト(5)、カワセミ(2)、ヒバリ(15)、ツバメ(50)、ハクセキレイ(3)、オオヨシキリ(10)、セッカ(10)、ホオジロ(1)、カラヒワ(1)、スズメ(50)、ムクドリ(100)、ハシボソガラス(30)、ハシブトガラス(30)、ドバト(20) 計28種

とても暑くなってきて、鳥たちも種類も数も少なくなった。最初に、カワセミの親子が現れて、餌渡しを見ることができた。



アカアシシギ

しろちどり原稿募集

編集部では原稿を募集しています。鳥に関わるどのようなことでも結構です。

挿絵なども募集します。

締め切りは2011年10月1日です。

原稿は、Eメールか郵送で 平井正志まで

E-mail: mhirai@aol.jp mhirai@kpu.ac.jp

送付先 〒514-2325 津市安濃町田端上野910-49  
平井正志 宛

お知らせ

11月27日(日)大仏山で冬鳥を見よう!探鳥会  
公共交通機関で、JR宮川駅からの「おかげバス」がなくなりました。ご注意ください。

編集後記

ひさしぶりに「しろちどり」の編集に参加した。以前と使うソフトが異なり、四苦八苦した。こまかいレイアウトはまだ納得いかない。会員諸氏の批評を乞う。雨に濡れる北の牧草地を見ながら。M.H.

しろちどり 68号

2011年8月1日発行

題字:濱田 稔

表紙絵:小野新子

カット:平井正志・小野新子

編集:近藤義孝

511-0123 桑名市多度町北猪飼 521

発行所:日本野鳥の会三重

平井正志方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

[http://www.geocities.jp/sirochidori\\_mie/](http://www.geocities.jp/sirochidori_mie/)

印刷:伊藤印刷株式会社

〒514-0027 三重県津市大門 32-13